

《薬局サーベイランスコメント》

『2018年第9週のインフルエンザの患者数は約68万人と4週連続して減少、流行は落ち着きつつあるがまだしばらくは注意が必要』

2018年3月6日
済生会中津病院感染管理室
安井 良則

今シーズン（2017/2018年シーズン）の2018年第9週（2月26日～3月4日）の1週間当たりのインフルエンザの推定患者数は677,156と4週連続して前週の値よりも減少しました（図1）。また、週明けの月曜日（2018年3月5日）の推定患者数は126,509と前週の月曜日の値を下回っており、インフルエンザの患者数は更に減少していくものと予想されます。

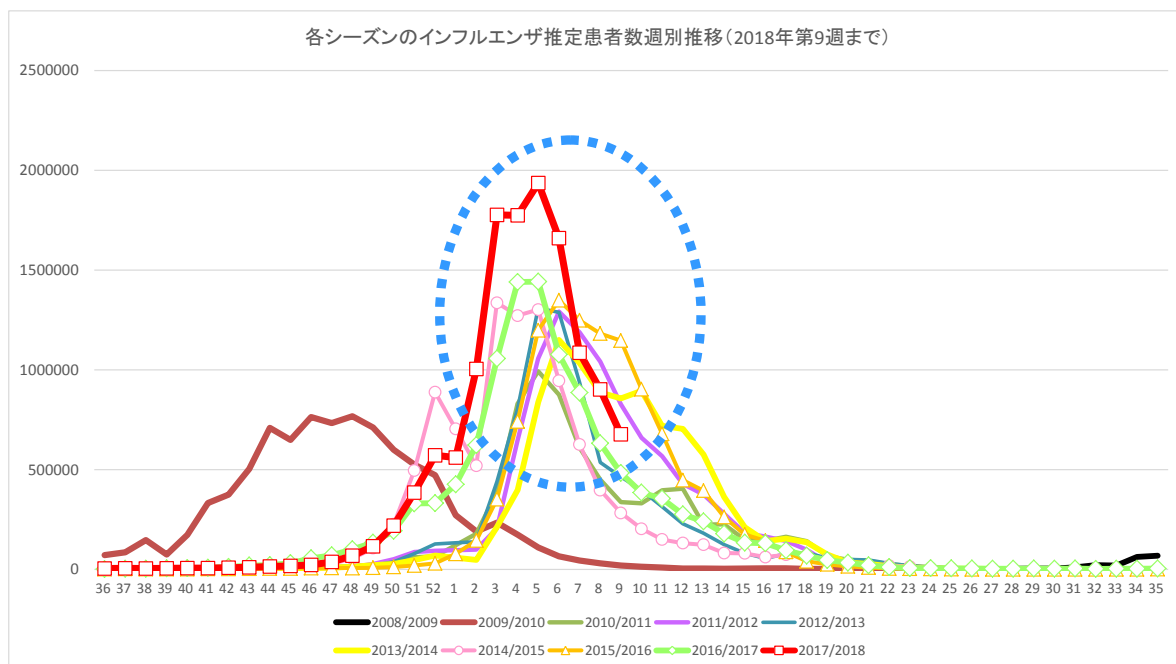


図1. 過去7シーズンと今シーズン（2017/2018年シーズン）の第36～第9週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移（2018年第9週の推定患者数= 677,156）

2017年第36週から2018年第9週までの累積の推定患者数は12,877,100であり、2017年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は10.16%と10%を上回りました。年齢群別での累積罹患率は5～9歳(43.56%)、10～14歳(31.13%)、0～4歳(23.48%)、15～19歳(14.44%)、40～49歳(8.96%)、30～39歳(8.48%)、50～59歳(7.50%)、20～29歳(7.09%)、60～69歳(5.30%)、70歳以上(3.59%)の順となっています（図

2)。

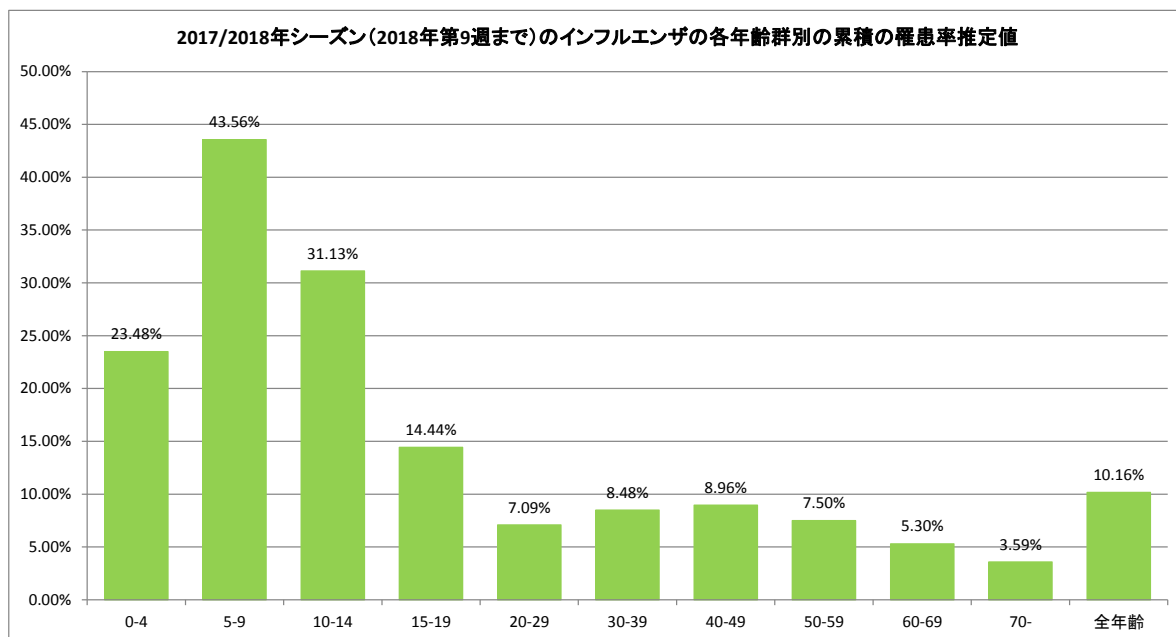


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値 (2017 年第 36~2018 年第 9 週、累積推定患者数=12,877,100)

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報 (<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr/510-surveillance/iasr/graphs/1532-iasrgv.html>) によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス (4,576 検体解析) は、B 型 41.6%、A/H1pdm 37.2%、A/H3 (A 香港) 亜型が 21.2%の順となっています。一方、2018 年第 4 週以降に検出されたインフルエンザウイルス 746 検体の解析では B 型 64.3%、A/H3 (A 香港) 亜型 25.5%、AH1pdm 10.2% と B 型 (大半が山形系統) が多数を占めています (図 3)。

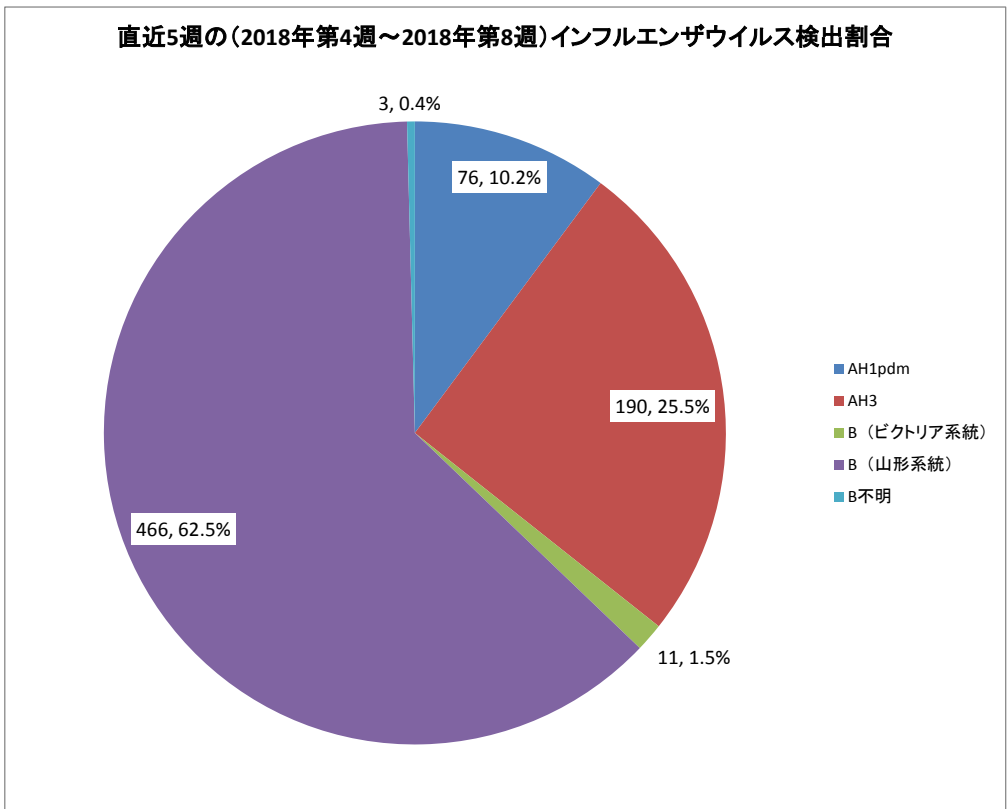


図 3. 直近 5 週間のインフルエンザウイルスの検出割合 (2018 年第 4 週～8 週、検出数 746)

第 9 週のインフルエンザの患者数は約 68 万人と 4 週連続して減少がみられ、流行は落ち着きつつあります。一方、B 型インフルエンザを中心とした流行はまだ継続しており、インフルエンザの流行にはまだしばらくは注意が必要です。